

経営比較分析表／団体全体（令和4年度決算）

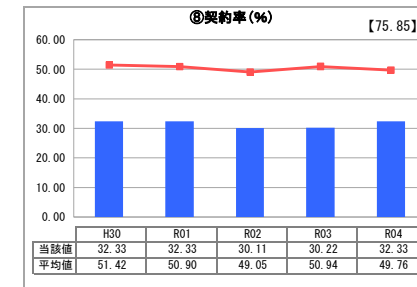
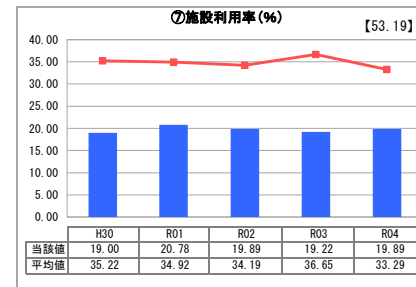
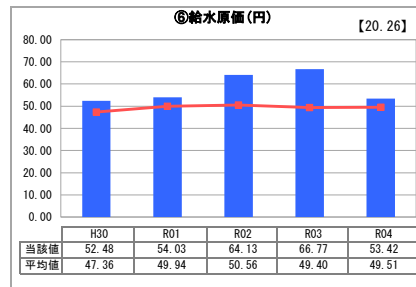
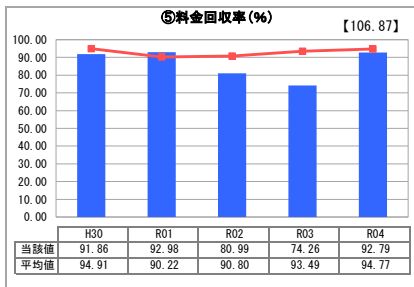
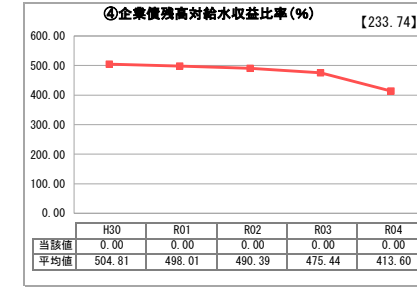
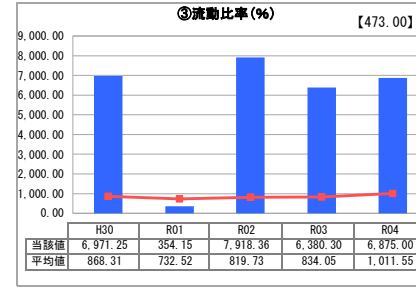
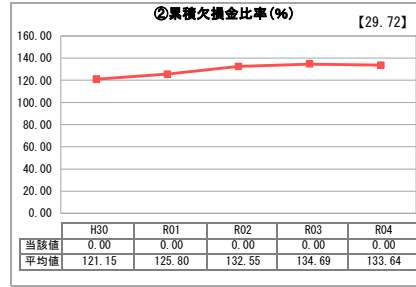
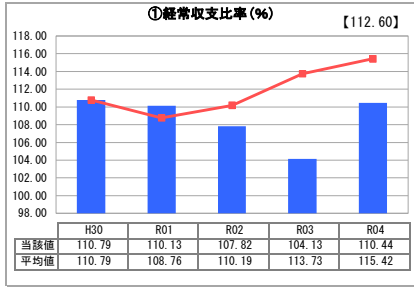
鹿児島県 霧島市
【事業概要】

業務名	業種名	現在配水能力(合計)(m ³ /日)	類似団体区分	施設数	1日平均配水量(m ³)
法適用	工業用水道事業	900	極小規模	1	179
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	給水先事業所数	契約水量(m ³ /日)	管理者の情報	
-	93.0	23	291	非設置	

グラフ凡例

- 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)
- 【】 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①当該値は100%以上となっているものの、給水収益のみでは費用を賅えておらず、毎年、一般会計からの補助金を繰り入れて完結している状況である。工業団地への企業誘致はほぼ完了しており、水需要が今後増加する見込みはなく、厳しい経営環境となっている。

②累積欠損金はない。

③近年は類似団体平均を上回る水準となっているが、これは決算時における流動負債残高(未払金)が少額であるためである。R1は決算時に工事に係る未払金が発生していたため低い数値となっている。

④企業債残高はない。

⑤一般会計からの補助金を繰り入れてもなお給水原価が供給単価を上回っている状況である。

⑥費用に対して有収水量が少ないことから、当該値が高くなる傾向があり、類似団体平均を上回っている。今後費用抑制に努め改善を図る。

⑦水をあまり使用しないユーザー企業が多いため、配水量も少なく、施設能力が過剰となっている。

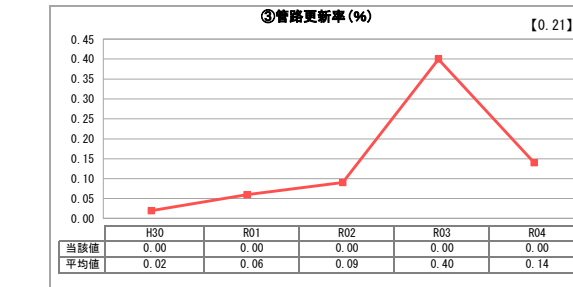
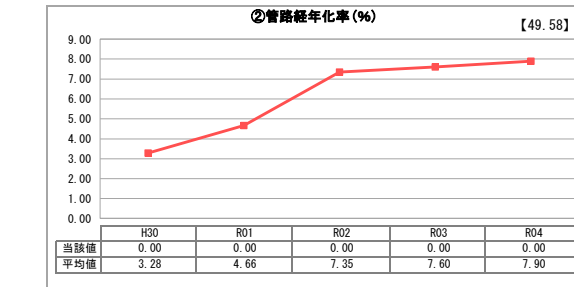
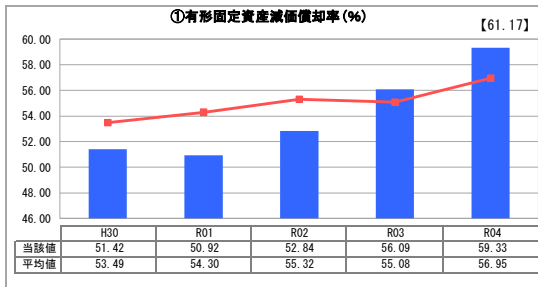
⑧1日の最大給水量は900m³であるが、R4決算時契約水量は1日あたり291m³で未売水が多く発生している。工業団地への企業誘致はほぼ完了しており、契約企業の水需要も今後増加する見込みはほぼないことから、当該値は今後も同水準で推移していく見通しである。

2. 老朽化の状況について

①当該値は増加傾向にあるため施設更新等の必要性が高くなっている。

②、③ 平成元年に供用開始をしており、法定耐用年数を経過した管路はなく、管路の更新も行ってない。

2. 老朽化の状況



全体総括

本事業は、旧鹿児島県開発公社が整備した工業団地に工業用水を供給するために創設されたが、計画敷地から大規模な道跡が発見されたことによる敷地面積の縮小や、企業数及び使用水量の伸び悩み等により、現在は当初計画の給水能力を大幅に縮小し事業を行っている。

企業が使用する水量は少なく、施設の規模縮小等経営の見直しは行っているものの、給水収益のみで費用を賅うことはできず、一般会計からの補助金を毎年繰り入れている状況である。また、将来の管路更新時期には多額の資金が必要であるため事業を廃止し水道事業へ統合する方針である。